

[dō:k]

D O N C どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F/Siege : Oden Building 21-4

Higashi Marunouchi Tsu JAPON

N° 51 janvier 2000 SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

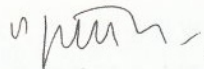
グロドー=モンターニュ駐日フランス大使よりの 三重日仏協会へ新年のメッセージ

C'est avec grand plaisir que j'adresse mes meilleurs vœux, pour cette exceptionnelle année 2000, à tous les membres de la Société franco-japonaise du département du Mie.

Qu'il me soit aussi permis en cette occasion de faire part à chacun de ma gratitude la plus sincère, et de mes encouragements les plus chaleureux, pour l'engagement personnel qui est le vôtre au service de l'amitié entre nos deux nations.

Sachez que j'attache une grande importance à cette contribution très concrète que vous apportez au développement des relations franco-japonaises, et que je regrette d'autant plus de n'avoir pas encore pu vous rendre visite, bien que j'en aie depuis longtemps le projet. C'est mon souhait le plus vif de pouvoir faire votre connaissance et découvrir le Mie, un département dont je sais l'importance historique dans la formation de la civilisation japonaise.

Espérant avoir prochainement ce plaisir, je vous souhaite une excellente nouvelle année.



Maurice GOURDAULT-MONTAGNE

= 訳 文 =

2000年の幕明けに際し、三重日仏協会の会員各位にご挨拶させていただきましたことをたいへん嬉しく思います。

また、この機会に両国の友好関係を促進させるためにご尽力くださっておられる皆様にお礼申し上げますと共に、今後もそうした分野で活躍されますよう切に望みます。

日仏関係に寄せられる具体的なご貢献を重視する私は、前々から予定はあるものの、なかなか三重県に伺うことができずに残念に思っています。日本文明が構築される過程で歴史的に重要な役割を果たした三重県を早い時期に訪問し、日仏協会の会員方々とお目にかかれそうですよう強く希望します。

その日を楽しみにしつつ、素晴らしい一年になりますようお祈り申し上げます。

駐日フランス大使 モリス・グロドー=モンターニュ

大阪、神戸駐在アラン・ナウム総領事からも新年の祝詞をいただきました。



フランス各地で交流果たす 1999秋の親善旅行団

三重日仏協会協会メンバー有志による南フランス親善の旅は、8名が参加、昨秋10月23日から31日までの日程で無事おこなわれました。その間プロヴァンスでは、1998年秋、三重県で『太陽の地プロヴァンス…日本展』をともに成功させた6人の芸術家を中心とするEDETプロヴァンス・ジャポン協会のメンバーとの交流、続いてマチスらと並ぶ今世紀初頭の大家オーギュスト・シャボアの郷里グラブゾンで、市長主催の歓迎会にのぞみました。北上してリヨンでは、ラヴェル弦楽四重奏団の北浜玲子さんや、『日本年』のコンサートでお世話になった寺田恕子さん、ここ数年にわたって三重県に企業研修生を派遣しているリヨン大学の関係者らと再会、交流するなど、密度の濃いスケジュールを消化、最後はパリでしめくり帰国の途につきました。メンバーは井土、大原、菅谷、滝沢、豊田、平井、横山の7名に、プロヴァンスのみ平野が合流しました。

プロヴァンスでは当地在住の世古由里子さん(三重県海山町出身)から、滞在、交流などのいろいろの面でたいへんご助力をいただきました。

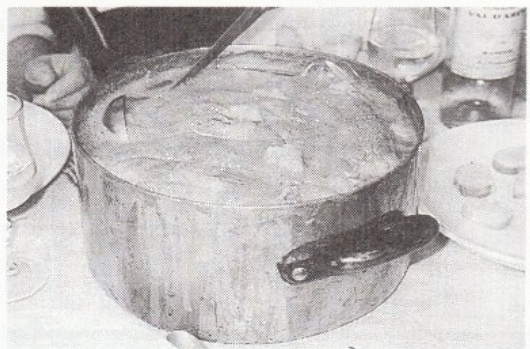
一行の一人、料理名人の平井夫人に紀行文を寄せていただきました。

国際交流の醍醐味

楽しかった「日仏」フランス旅行

写真と文
平井由美子

夜8時過ぎ、マルセイユ空港にプロヴァンス・ジャポン協会のメンバーが出迎えてくれました。三重からは7名の参加(平野さんは現地で合流)です。すぐ「軽い歓迎会」ということでピザや珍しいチーズ、ワインで乾杯。3000m級の山にしか生えないという香草ジェネピーを抽出した強い食後酒が出て空の長旅の疲れも吹き飛びました。そのあとノートルダム・ド・ラ・ギャルド寺院からマルセイユの夜景を楽しみ、ホテルに着いたのは0時半(日本時間なら朝7時半。前日朝6:48津を出発した)、機内で一睡もしていない方々には脱帽!



ブイヤベースの大鍋とアイオリをつけたパン

次の日、マルセイユ港では、水揚げされたばかりの魚が並べられ市が開かれました。その活きのいいこと!画家の皆様の好意で、昼食はこの新鮮な魚を使ったブイヤベース鍋をいただきました。運ばれてきた銅の大鍋はサフランで色づけされた濃い黄色のスープいっぱい満たされ、手長エビや魚や貝があふれるようでした。軽く焼いた薄切りのフランスパンに、ニンニクたっ



ルボブ邸での夕食会(立っているのがエチエンヌ会長
右中央の白シャツが父クロード画伯)

ぶりのアイオリを塗って皿に取り、グリュイエールチーズをかけて、その上からスープと具を入れて食べるのです。鍋には4種類の魚、手長エビ、小イカ、じゃがいも、ムール貝、巻き貝、かわいいカニも入っていました。蟹味噌の入った小さな甲羅でスープと一緒にすすると、“これぞマルセイユ！”の味でした。鍋底にたまっている小魚のすり身が美味しさの秘密、と教えてくれたのは画家のアルランディス夫妻。そして生きている魚を使わないとダメとも。

まさに漁師のスープ。前から食べてみたかったスープでした。

午後は協会会長のエチエンヌ・ルボブさんの案内でエクサンプロヴァンスを歩いてから、彼の父で画家の長老クロード・ルボブさんのお宅へ。とても80歳とは見えない元気な方でした。エチエンヌさんが法政大学に通っていたこともあって日本びいきの家族。奥様特製の料理やケーキ、ワインとチーズを味わいながら、日仏交流のひとつときを過ごしました。同席されたシモンさん(展覧会のときに津にきた立体作家)の奥様はモジリアニの絵を思わせる方だったし、6人の芸術家のなかのただ一人の女性M I I e. ラファエル・ゼキエロは彼女自身の絵から抜け出てきたような独特な雰囲気の方でした。

翌日はグラブゾンという町から招待されて昼食会。当地の画家A. シャボールの美術館とアトリエ等を訪問。さらにその後リヨンでは、まもなく来日予定の研修留学生2人を交えて、リヨン大学関係者や在住の方たちと話はずみしました。また昨夏四日市に研修にきたM I I e. アリアンヌのお母さんが案内してくれた、スイスに近い湖の街・アヌシーは目の覚めるような黄色の紅葉で、みんな感激でした。

今回の旅はこのほかにも多くの方のお世話になり、国際交流の醍醐味を味わった素晴らしい旅でした。

家に帰ると、私を待っていたかのように紫色のサフランの花が咲き初めていました。さて、それを使っての日本風ブイヤベースはいかに??



グラブゾン市が用意してくれたケーキ
「Jumelage」(姉妹提携)の文字に驚かされた



グラブゾン市長招待昼食会

男性右から二人目がミシェル・ペクー市長 隣が助役さん(井土撮影)

11/6 ハーゲンミュラー教授歓迎会

ボルドー大学名誉教授で固体化学の権威ポール・ハーゲンミュラー氏が来県され、三重日仏協会との交流を希望されたため、11月6日夜津市の「プラザ洞津」で歓迎夕食会を開きました。矢谷会長以下十数名が参加、和やかに懇談しました。このほかにも、四日市市と津市で本会会員による氏を囲む集いももたれました。

フランス各地で多彩なイベント Mission 2000 en France

このほどフランス政府観光局から届いた資料によりますと、当観光局と「フランス西暦2000年委員会」は西暦2000年を記念する多彩な事業を準備しており、2001年にかけてパリなどフランス本土をはじめとして、マルティニークやマルキーズ諸島などの海外領までふくめ計数百のイベント、祭り、行事が繰り広げられます。それらのなかで特に外国の人々の関心を集めそうなものとして挙げられるものを紹介します。

● 2000年4月～9月

「ヨーロッパの文化的首都アヴィニオン」展覧会『美』La Beauté—国際的な現代のアート、建築、デザイン、映画、音楽、ファッションなどの大規模で多角的な展覧会を法王庁で開催するほか、7月には54回「アヴィニオン演劇フェスティバル」が2000年記念特別作品を上演する。

● 2000年6月21日 「ペリフェロック」

パリの主要環状道路「ペリフェリック」が初めて部分的に閉鎖され、世界の多くのロックバンドや音楽グループがライブ演奏をする巨大なステージとナイトクラブに様変わりする。そのほかパリの広場をはじめフランス各地の町々でも無数のコンサートなどが夜更けまでつづく。

● 2000年7月14日 「緑の子午線と桁外れの (incroyable) ピクニック」

すでに99年11月、北はダンケルクから南はピレネーの山村まで1000キロメートルにわたる「パリの子午線」に沿って、337の市町村の子供たちが檜、ヒマラヤ杉などの若木一万本以上を植え、また花畑も作られた。2000年6月これをたどる遊歩道が開通、7月14日の国民祭日にはこれらの町の数百万の人々が参加して凧揚げ、気球、食事など「桁外れのピクニック」を楽しむ。

このほか、エクス国際オペラフェスティバル、パリのポンピドゥー・センターの改装オープン、ボルドー「ブドウ畑の風景」など、30あまりの多彩なイベントが紹介されております。関心のある方には詳しい資料をお見せしますので事務局まで。

1/22 (土) バルザックのお話・アンコール ふたたび柏木先生にお願い

昨年7月総会記念講演では大阪大学柏木隆雄教授から、生誕200年にあたるバルザックの作品や人となりについて興味深いお話をうかがいましたが、それがきっかけとなって本会有志メンバーによる「ファチーノ・カーネ」の輪読会も開かれるようになりました。さらに今年はバルザック没後150年にあたり、会員のなかに彼への関心が深まっていることもあって、再び柏木先生にごむりをお願いして下記のような小規模な「バルザックのお話を聞く会」が実現することになりました。お誘い合わせでご来場ください。

- 1月22日 (土) 午後3時～5時
- 津市西丸之内 井上様宅 (永井病院南隣、JR線路沿い 059-222-6616)
- 参加費 1,000円を予定
- 問い合わせ 菅谷(すげのや)さん 059-223-2690まで